資料3

第 2 期長期モニタリング計画に基づく中間評価の実施について（共通資料）

1.　全体スケジュール

＜評価の実施時期＞

年度	2012～2021	2022	2023	2024	2025	2026	**2027**	2028	2029	2030	2031	**2032**
計画期間	第1期	**第2期**										（第3期）
評価	第1期 総合評価						**第2期 中間評価**					**第2期 総合評価**
モニタリングデータ												

・中間評価は、対象期間を 2022～2026 年度（5カ年）とし、2027 年度に実施する。

・総合評価は、対象期間を 2022～2031 年度（10 カ年）とし、2032 年度に実施する。

・中間評価及び総合評価は、各対象期間に得られたモニタリングデータに基づき、実施する。

2.　各 WG/AP における作業手順

2026 年

第 1 回 WG/AP・科学委

①　作業スケジュールの共有

②　評価の枠組み（評価手法）の確認と担当するモニタリング項目・評価項目の確認

第 2 回 WG/AP・科学委

①　モニタリング項目のデータ取得状況の確認

②　モニタリング項目の 5 年データの整理結果

③　未取得データ、課題の取り扱い方針協議

2027 年

第 1 回 WG/AP

① モニタリング項目の評価案（評価シート）提案・協議

第 1 回科学委

① 科学委担当のモニタリング項目の取り扱い

② 評価項目の評価の取り扱い協議（特に複数 WG との調整が必要な評価項目）

第 2 回 WG/AP

① モニタリング項目の評価確定

② 評価項目の評価案（評価シート）提案・協議

第 2 回科学委

① 評価項目の評価の確定

2028 年以降（必要に応じて）

① 総合評価に向けた取組の継続

② 課題整理と評価の枠組みの見直し

3. （中間）評価の枠組み

＊_第 2 期モニタリング計画を基に議論を行う

＊_モニタリング項目の評価、評価項目の評価のみ実施予定

＊_評価の枠組みそのものに対する疑義や課題があれば、次期計画への反映に向けて議論を行っていく

4.　エコツーリズム WG が担当するモニタリング項目・評価項目

モニタリング項目 F 関係

総合評価

評価の対象	評価の観点
2 環境圧力・観光圧力（状態・動向））	知床の世界自然遺産としての価値に対する環境圧力・観光圧力の影響はみられるか

評価項目の評価

	評価項目	評価基準
F	知床の世界自然遺産としての価値に対するレクリエーション利用等の人為的活動による影響もしくは影響の予兆はみられるか	人為的活動による影響を受けると考えられる事象を対象として、遺産登録時または登録後に策定した各種計画や戦略等で設定した状態との比較、変化の確認

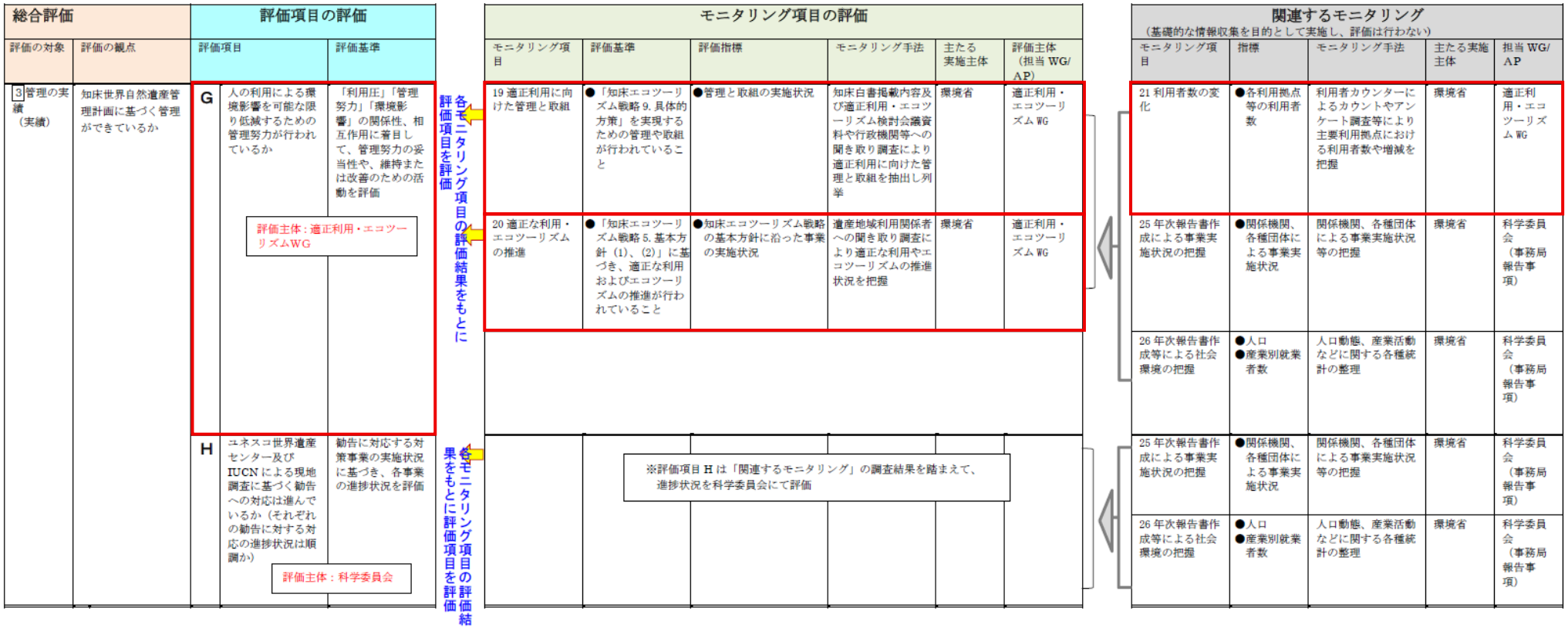
評価主体：適正利用・エコツーリズム WG
※海域 WG、ヒグマ WG と調整

各モニタリング項目の評価結果をもとに、評価項目を評価

モニタリング項目の評価

モニタリング項目	評価基準	評価指標	モニタリング手法	主たる実施主体	評価主体（担当 WG/AP）
5 ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査	●おおよそ登録時の営巣数が維持されていること	●営巣数とコロニー数 ●特定コロニーにおける急激な変動の有無	ウトロ港から知床岬を経て相泊港までの区画ごとの繁殖数をカウント。ケイマフリは、生息が確認されている範囲において海上の個体数のカウント。営巣数の変動についても記録	環境省	海域 WG 適正利用・エコツーリズム WG
14 利用者の問題行動がヒグマの行動に与える影響	●「第 2 期知床半島ヒグマ管理計画」に基づき、利用者の問題行動に関係する危険事例の発生件数を現状以下に抑制すること	●利用者の問題行動に関係する危険事例の発生件数 ●人間側の問題行動の状況 ●施設の開閉状況	ヒグマによる被害や危険事例、人間側の問題行動、施設の開閉状況（知床五湖の地上遊歩道、フレペの滝遊歩道）をアンケートや通報、ヒグマ対策業務等を通じて情報収集	環境省	ヒグマ WG 適正利用・エコツーリズム WG
20 適正な利用・エコツーリズムの推進	●「知床エコツーリズム戦略 5. 基本方針（1）、（2）」に基づき、適正な利用およびエコツーリズムの推進が行われていること	●知床エコツーリズム戦略の基本方針に沿った事業の実施状況 ●資源利用形態の変化 ●客層の変化 ●自然環境への懸念	遺産地域利用関係者への聞き取り調査により適正な利用やエコツーリズムの推進状況を把握	環境省	適正利用・エコツーリズム WG
22 登山者による高山植生への影響調査	●影響が拡大していないこと	●植被率や種組成 ●植生景観の変化	モニタリングサイトを設定し、植被率や出現種の記録、および定点における植生景観の写真撮影	環境省	適正利用・エコツーリズム WG
⑩シャチの生息状況の調査	●人間活動がシャチの生息地利用を妨げていないこと	●識別個体を含むシャチの来遊	個体識別調査	Uni-HORP（北海道シャチ研究大学連合）	海域 WG

関連するモニタリング
（基礎的な情報収集を目的として実施し、評価は行わない）

モニタリング項目	指標	モニタリング手法	主たる実施主体	担当 WG/AP
21 利用者数の変化	●各利用拠点等の利用者数	利用者カウンターによるカウントやアンケート調査等により主要利用拠点における利用者数を把握	環境省	適正利用・エコツーリズム WG
26 年次報告書作成等による社会環境の把握	●人口 ●産業別就業者数	人口動態、産業活動などに関する各種統計の整理	環境省	科学委員会（事務局報告事項）
－	－	－	－	－

適正利用・エコツーリズム WG が担当するモニタリング項目と評価項目